

社長が、率先して経営理念の実現に向けて日常実践を！

最近、経営理念の第一条に、「従業員の物心両面の幸福を追求する」という、高邁なフレーズが多くの子会社に見受けられます。

しかし、その経営理念が“空念仏”のような、“掲示物”のような観念的なものになっていませんか。日々の実践の中で、具体的な行動に落とし込めていないのではないのでしょうか。社長が、どこかのセミナーか、経営塾で聴いてきて取り入れただけの形式的なもので終わっていませんか。

これでは、社長に社員さんは付いてきてくれません。社長の発言に、社員さんが熱く燃えてくれることはありません。

経営理念は、社長の命よりも上位概念であることが、腑に落ちているでしょうか。

組織を引っ張る社長は、「誰が正しいかではない、何が正しいかである」と、事あるごとに、社員さんに伝え、理解してもらおうよう努めることです。

出光佐三は、“社員を採用した時、僕は子供が生まれたと言うんだよ”と語ったそうですが、まさにこの心構えが重要だと思います。

そもそも、事業経営の目的は、人を育て、人を豊かにし、人を幸せにすることにあるのです。社員さんが、楽しく働けない組織は、早晚傾いていくでしょう。

元来、我々日本人は、情を大切にしてきました。人情・愛情・思いやりの深さが人を感動させ、仕事にも人生にも喜んで全力投球して来たのです。

『言挙げせず』は、究極の大和心でしょうが、これは現代社会には少し無理があるでしょう。諸外国は日本の心のレベルには、遥かに達していないからです。

今しばらく、論理的に、合理的に、筋道をいちいち説明する必要があるのです。

さて、この大事な「経営理念を、どのように我社に落とし込むのか」が問題です。

それは、他でもない社長自身の日頃の行動 (behavior) そのものにあります。

経営理念の理解の深さとも言えます。頭の中での {知識} で理解したレベルなのか、胸の中での {見識} で理解したレベルなのか、肚に落ちた {胆識} で理解したレベルなのかということ。

繰り返し、繰り返し実践し、身に付けて、社長自身の判断基準・行動基準が、自ずからして経営理念に拠るならば、これは本物です。

年々、社風が良くなっていれば、間違いなく、社長の行動が、経営理念の実践に沿っているのです。

テクニックや、ノウハウや、規程や基準を拡充する前に、社長自身の経営理念の実践の深さを見直し、より深いものにして参りましょう。



今月のポイント

経営理念の実現に命をかける！！